

---

# ヒーローと言えば桃太郎

ランプ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヒーローと言えば桃太郎

### 【Zマーク】

Z2036V

### 【作者名】

ランプ

### 【あらすじ】

「ヒーローと言えば日本では桃太郎ですよね」そんな偏った英雄  
像を持つ少女（日本からトリップしてきた女の子）と生真面目だけ  
どどいか天然な勇者のゆるい掛け合い。

お話はすべて会話のみの予定です。もしかしたら途中で面倒にな  
つて心理描写くらいは入っちゃうかもしませんが、今のところは  
会話文のみです。

## お腹ひつた（前書き）

一話一話はとても短くなる予定です。

## お腰についた

「勇者様、勇者様」

「なんだいサル君」

「お腰についた吉備団子、一つ私にくれださこな」

「は？ キレ？」

「ああ、そうでした。桃太郎はこの世界では通じないのでした。すいません。何でもないです」

「え？ あ、それ……？」

「はい、どうもすこませんでした」

「いや、そんな謝らなくともいいけどね？ ……もし申し訳ないと  
思つてゐるならそろそろ名前を……」

「私の名前なんていいじゃありませんか。私なんてサルで十分です  
よサルで」

「いやでも……人間をサル呼ばわりするのもやつぱり気が引けて……」

「だつて勇者様が悪いんですよ」

「は？」

「鳥の姿をしている精霊と、犬の姿をしている聖獣を連れたヒーロー（勇者）とか……桃太郎じゃないですか！」『』で私が足りないサルをやらなくてどうするんですか！」

「え？」

「すいません今は迷言です。忘れてください」

「いやでも……」

「忘れてください」

「…………」

「それよりも勇者様」

「なんだいサル君」

「私達は今『』に向かってるのでしょ『』？」

「ああ、そつか。君にはまだ言つてなかつたね。僕たちは今魔王が住まつ魔族の大陸を目指してるんだよ」

「鬼ヶ島ですねわかります」

「え？」

「なんでもないです。お戻しなさい『』」

「え、そり？」

「は」そうです。……それにしても魔王ですか。いよいよもつてフ  
アンタジーかつ王道ですね」

「やうかい？」

「ええ。剣と魔法の世界。勇者。魔王。なんて素敵な王道ストーリ  
ー！ さらには日本の古来より伝わるヒーローと同じキジ、犬、サ  
ルを連れてるなんて……」

「キジ？」

「あ、その精霊の事ですよ。見た目まんま私の知ってるキジなんで  
すよね」

「やうひなんだ。二ホンって君がいたところ？」

「はい。カオスが形を成したような国です」

「なんでもないです忘れてください」

「また？」

「忘れてください」

「…………」



## お腰につけた（後書き）

意味？　目的？　ストーリー？　なにそれおいしいの？

## 吉備団子

「勇者様、勇者様」

「なんだいサル君」

「あれはこつたいなんなのぞしょ~い~。」

「あれ?」

「はい、あの路上で売っている妙に甘く芳しい香りを放つ白い物体  
は

「ああ、あれはこの地方のお菓子ですね。名前は『キビダ・ゴ』と言  
ひこころよ」

「吉備団子ー?」

「こや『キビダ・ゴ』」

「吉備団子ー?」

「聞いたやいないね

「勇者様あれ買いましょ~」

「ん? 食べたいの?」

「食べたいと言つか、勇者様のお腰にぶら下げるておこて欲しいので

す

「え、僕甘いものってあまり好きじゃないんだけど……」

「大丈夫です。食べる時は勇者様ではあります」

「あ、そつなの？（サル君が食べるのかな？）」

「はい、食べる時は私と犬とキジです」

「え」

「勿論伝説のあの台詞も忘れません。『桃太郎さん桃太郎さんお越しへつけた吉備団子一つ私にくださいなー』」

「とつあえず、言いたい事全部言つていいかな？」

「どうぞ」

「まず最初に君が犬とキジと呼んでいるものは生物としての規格に入らない特殊な存在だ。だから物を食べたりする事はしないんだよ」

「でも食べられますよね？」

「え」

「食べられますよね？」

「……まあ、食べる事は可能だつたけど」

「 なら問題ないですね」

「（問題ない……のか？）…………それじゃあ、次。なんでわざわざ僕がもつのかな？」

「セオリーです」

「せお…………え？」

「吉備団子は桃太郎が持ち、桃太郎は吉備団子を持つべきなのです」

「いや僕そのモモタローリーじゃないから勇者だから」

「同じです」

「同じ…………か？」

「わあわあ勇者様。わつわと吉備団子を腰につけてください

い

「いやいや待って。最後に一つ聞きたいんだけど…………伝説の呪詞って…………何？」

「それはあれです。夢とロマン溢れる秘密の呪文。子供心にトキメキを覚えたあの興奮を今… そつ今…」

「「1」めん全然わかんない」

「まあ別に理解してほしこなんていれっぱちも思つてませんので説明はおぞなりかつ適当です」

「.....」

「 もーー やつ聞く事も聞か終えた事ですしー。急いであの吉備団子を奪取しに行かねえー。」

「 ちやんと金払って聞くわね」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2036v/>

---

ヒーローと言えば桃太郎

2011年8月6日10時51分発行